

## 田川県土整備事務所を経験して

田川支部 田川県土整備事務所 企画班

新山 孝和

田川県土整備事務所に配属になって、5年間の歳月が立とうとしている。県職員というのは、言うまでもなく県の職員であって、配属先は福岡県内どこになってもおかしくない。その代わり転勤が定期的に行われる。それで、県庁職員となって10年目である私は、この職場が2職場目である。ここで、転勤（予定）を目前に控え、この職場で感じたことと、思い出の部活動について述べていきたい。

まず、この事務所の第一の特徴はなんといっても、若手構成比率が他事務所に比べるとダントツに高い（たぶん）というところが挙げられる。だから何、と思われる方もいると思うが、これは結構大事なことではないかと感じている。私的な意見だが、職場がよくなる勝手な理論として、若手の同じ世代が多いと、いい意味でのライバル心が芽生えレベルアップに手っ取り早い結果となる。そして、そのまた一つ二つ上の世代が、切磋琢磨している後輩を眺めることで、先輩としてこのままではと鞭を打つ。そして職場全体が活気づく。というような雰囲気が感じられる職場だからである。

また、この職場での醍醐味は、昼休みとアフター5での部活動に並々ならぬ力を注いでいることだ。部活動というのは、学校などにおいて行われるものを思い浮かべる向きも多いがあえて部活動という名で呼ばせていただきたい。ここで、はじめに言っておきたいのは、仕事が暇なわけではない。それぞれ、仕事がある中、あえて時間を割いて行なっているということを念のため添えておく。部活動の内容は、野球、サッカー、卓球、そして年度を締めくくることが、3月に行われる駅伝。これらは、各それぞれ県職員内での大会がおこなわれる種目である。このなかで、私が主に携わっていたのが、野球そして、駅伝。まず、野球についてであるが、この種目は経験がものをいう。野球は特に土木職で入庁すると、若手は強制参加させられる部活動であるが、高校野球経験者である若手が入ってくると、長年県庁職員になって野球をやってきた先輩がいたとしても、その若手にはかなわない。そこが実に面白い。その先輩が監督をし、キャプテンをし、自分よりうまい後輩を指導しチームをまとめあげていく。逆に後輩は、自分より野球を知らない先輩から、あれこれ言われ、野球に参加していく。仕事では、けちゃんけちゃんと言われても、野球となれば、それらの後輩は、今まで学校での部活動を経験してきたプライドもあり、自分の意見を述べていく。ちなみに、私は少年野球中退者で素直に職場のみんなとやる野球を純粋に楽しんでいるだけの立場である。そのため、これらの関係を客観的にみることができた。仕事では、後輩は先輩を尊敬のまなざしで接している（たぶん）が、野球では、先輩は後輩を尊敬とまでは言わないが、それに似た感情を抱く。お互いを認めあう間柄が形成される。この感情は、人間関係の中で、大事なことではないかと感じる。仕事だけの世界とな

ると、先輩が一方的に後輩を罵りがちになりやすい。指導をしているという立場であろうが、いたずらに一方的ということだけじゃなく、お互いに認め合うというところがあったほうがよいように思われる。それが、仕事外の野球という場面であっても、人間関係の中ではありなのではないかと感じる。

次に駅伝である。駅伝大会は、県庁内の出先機関を含む職場対抗で行われる5, 60チームが参加する大会である。ここの職場は、その大会は平成24年2月時点で4連覇を達成している。つまり私がこの職場に配属されてから、連覇を達成し続けているということだ。ちなみに私は、この職場で一年目にこのAチーム一軍で優勝を経験させてもらった。それで、なにが凄いかというと何とんでも、毎日の練習だ。冒頭に述べたが、ここの職場は年がら年中、何かをやっている。順番から言うと、野球および卓球、そしてサッカーの次にやってくるのが、この駅伝の部活動である。サッカーが11月頃に終わり、これが終わるとこの駅伝大会への猛特訓が開始される。もっと詳しく説明すると、駅伝大会が終わると、1週間ほどの休暇が終わったころには、来年の駅伝大会の練習が開始されている。駅伝が終わると、野球の練習に入るわけだが、なぜか、昼休みの練習会場は、約1キロ離れた公園で行われており、そこまで、ジョギングならまだしも、1キロインターバルというタイム設定を設けて走っている。野球のための体力ならそこまでする必要はない。要は、来年の駅伝大会を見据えているのだ。ということで、年間の部活動のなかで一番気合が入っているのがこの大会なのである。というか、気合をいれないと、この期間の職場へ足を運ぶのは憂鬱になるくらいなのである。仕事はどれも同じだとは思いますが、メンタルを鍛えるということは大事である。そこで、この駅伝の練習というものが精神を鍛え直してくれる。また、たかが県庁内での優勝とを感じるかもしれないが、そこでの達成感、チームとしての信頼関係、仲間を思う気持ち、絆。言い過ぎかもしれないが、そのくらい凄いものを得られたと思っている。

田川県土整備事務所は、そんなこんなで、上司と部下、先輩と後輩、そして同僚。人間関係を絶妙な形で形成している職場だと感じている。昨今の不景気で、人員が削減され業務多忙となり、業務外での付き合いが減りつつある中、このような関係を保っていくことは、年々難しくなっていると思われる。しかし、出来る限りこの雰囲気を残していき、この職場が結果的にいろんな意味でよりよい職場として引き継がれていって欲しいと、転勤2ヶ月前（予定）にして思う今日この頃である。